

令和3年度天草市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本市は、水田の耕地面積に占める主食用米面積割合が40%で、転作に占める飼料作物(WCS用稲含む)の面積が多く、耕畜連携による自給率の向上が図られている。

農業形態は、水稻を中心に畜産、果樹、野菜、たばこ等を組み合わせた複合経営を中心に行われている。

主食用米の作付面積は減少しているが、今後も需要に応じた米生産を推進するため、配分された作付目安の範囲内で主食用米の生産振興を図る必要がある。

また、一方で、主食用米の作付が減少する中で、水田活用の直接支払交付金を活用しながら他の作物の作付に転換することで、水田の維持と所得の増加を推進していく必要がある。

地域の抱える問題として、特に中山間地域における高齢化の進行や担い手不足、条件不利による耕作放棄地の増加が深刻で、不作付地の解消が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田農業の収益力向上のため、主食用水稻から野菜等の高収益作物への転作や、早期水稻の裏作での野菜等の作付けを推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の高齢化により耕作されない水田が増えているため、担い手農家の他、集落営農法人等、地域営農組織への集積を図る。併せて、水田台帳を利用した農業者対面による聞き取り及び現地確認により水田の利用状況を点検し、点検結果も踏まえつつ、特に山間地等で集積が困難な水田については畑地化も検討する。

また、農業生産法人等への期間借地を推進し、早期水稻の裏作での野菜等の作付を行い、水田の有効活用を図る。

4 作物ごとの取組方針等

産地交付金を含めた水田活用の直接支払交付金等を最大限に活用し、担い手への農地集積・利用集積化を進めながら、水田の収益力強化と不作付地の解消に取り組む。

(1) 主食用米

安全・安心で食味点数の高い売れる米作りを基本とし、担い手農家や生産組織への農地集積を推進しながら、需要に応じた生産量を確保する。また、高温環境下であっても品質を確保できる耐暑性品種の栽培拡大を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米・米粉用米・加工用米

飼料用米・米粉用米・加工用米の生産拡大にあたっては、水田活用の直接支払交付金や畑作物の直接支払交付金を活用しながら、栽培適地にあった多収品種の導入を推進することで単収を向上させ、生産性と所得の向上を図る。

また、飼料用米のわら利用を推進することで耕種農家・畜産農家相互のコスト削減を図る。

イ WCS 用稲

自給飼料を安定的に確保し、飼料高騰に左右されない安定した畜産経営を維持していくため、耕種農家と畜産農家のマッチングを図りつつ、団地化・利用集積や多収品種の導入により安定した作付を推進し、現状の作付面積を維持する。

(3) 飼料作物

自給飼料を安定的に確保し、飼料高騰に左右されない安定した畜産経営を維持していくため、耕種農家と畜産農家の連携による低コストで良質な粗飼料生産（イタリアンライグラスやソルガム等）について、戦略作物と二毛作による水田のフル活用を推進する。

また、粗飼料生産水田への堆肥の散布に取り組むことにより相互のコスト削減を図る。

(4) そば、なたね

実需者との契約栽培を基本に適地適作に取り組む。また、産地交付金を活用しながら弾丸暗きよ等の排水対策に取り組むことにより、収量・品質の向上に向けた安定生産を推進する。

また、そば、なたねの組み合わせによる二毛作の取り組みについても、産地交付金を活用して推進する。

(5) 高収益作物

耕作放棄地の発生防止や水田の持つ多面的機能の維持に効果が出ていることから、産地交付金における園芸作物（野菜等）への支援を行いながら、作付面積の維持・拡大を図り、所得向上を図る。

また、主食用水稲との二毛作による、水田のフル活用を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	1,210ha、4,622t	1,350ha、5,859t	1,350ha、5,859t	1,350ha、5,859t
飼料用米	32.8	33.0	34.0	35.0
米粉用米	0	1.0	1.0	1.0
新市場開拓用米	0	0	0	0
WCS用稲	489.4	490.0	490.0	490.0
加工用米	0	1.0	1.0	1.0
備蓄米	0	0	0	0
麦(基幹)	0	0	0	0
麦(二毛作)	34.7	35.0	36.0	37.0
大豆(基幹)	3.4	3.5	3.5	3.5
大豆(二毛作)	0	0	0	0
飼料作物(基幹)	79.0	80.0	81.0	82.0
子実用とうもろこし	0	0	0	0
飼料作物(二毛作)	221.9	222.0	223.0	224.0
子実用とうもろこし	0	0	0	0
そば(基幹)	8.2	8.3	8.4	8.5
そば(二毛作)	7.0	7.5	7.6	7.6
なたね(基幹)	5.8	6.0	6.0	6.0
なたね(二毛作)	7.2	7.5	7.8	7.8
高収益作物	141.9	142.0	143.0	144.0
・野菜(地域振興作物)	0	20.9	21.5	22.0
・野菜	123.2	102.6	103.0	103.5
・野菜(二毛作)	20.1	21.0	22.0	23.0
・花き・花木	10.2	10.0	10.0	10.0
・果樹	0.7	0.5	0.5	0.5
・その他高収益作物	7.9	8.0	8.0	8.0
その他	0	0	0	0
畑地化	0	1	1	1

※主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 434kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				令和2年度	令和5年度
1	野菜（地域振興作物）	地域振興作物への助成（基幹）	作付面積	—	22.0ha
2	野菜、花き・花木・果樹、その他作物	高収益作物への助成（基幹）	作付面積	141.9ha	142.5ha
3	麦、そば、なたね、飼料作物、主食用水稲後の野菜（レタス、高菜・広島菜、かぼちゃ、ブロッコリー、スイートコーン）	二毛作助成（二毛作）	作付面積	286.2ha	299.4ha
			農地利用率	112.7%	113.3%
4	WCS用稲、飼料用米、飼料作物	耕畜連携助成（堆肥散布・わら利用）（基幹・二毛作）	取組面積	254.6ha	280.0ha
			耕畜連携の実施率	39.2%	40.0%